

ウール衣料品の循環プロジェクト「WAONAS」を始動し、
2030年までに循環型制服10万着の販売を目指します

ニッケは、持続可能な社会づくりに貢献するため、使わなくなったウール衣料品を回収・再生し廃棄ゼロを目指す、「服から服」への循環プロジェクト「WAONAS」をスタートします。再生ウール繊維を使用した制服を2030年までに10万着販売することを目指します。

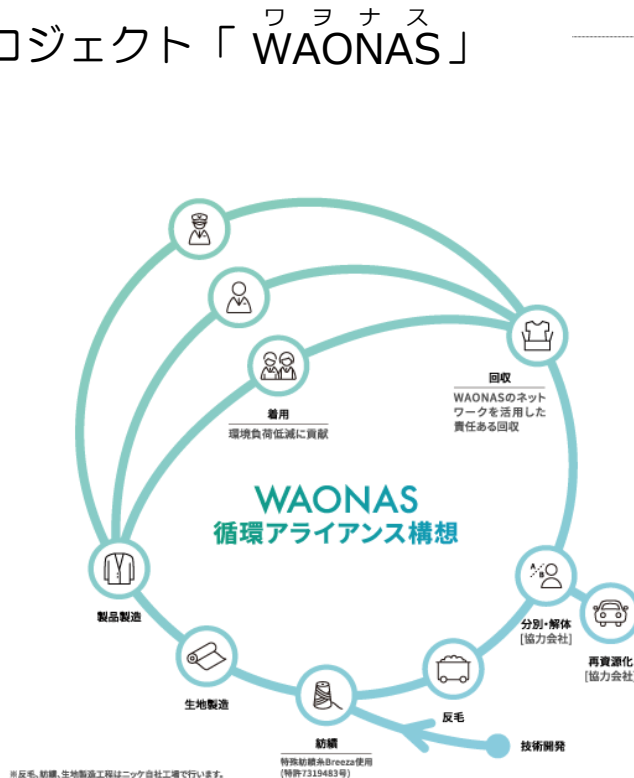
■ウール衣料品循環プロジェクト「WAONAS」

「WAONAS」とは、使用済みウール混の衣料品を回収し、原料の状態まで戻し、再び糸から服へと蘇らせる環境に配慮した日本初の取り組みです。

これまでは回収した衣料品を自動車内装素材などにリサイクルしていましたが、「服から服」へ再生させる流れを構築し、さらなる環境負荷低減を実現します。

また衣料品を回収・処理するルート強化し、現在大量に廃棄されている衣料品を、より多く効率的に資源化する体制を整えます。

そのために、ニッケは「WAONAS」を共に実現するパートナーを、サプライヤー様からユーザー様まで広く募っていく考えです。



- ◎ 和 人々が協力し、持続可能な社会を実現する
- ◎ 輪 回収循環・生産供給のためのパートナーシップを構築する
- ◎ 環 廃棄衣料を減らす活動を通じて地球環境保全に貢献する

■ニッケの取り組みの進化

ニッケは1998年から、ウール100%およびウール混衣料品を回収する〈エコネットワーク〉システムを構築し、回収した衣料品を自動車用内装素材など産業資材の原料として再生し、活用してきました。

また、ウールと他繊維の複合回収原料を衣料用の糸に再生するという、ハードルの高い技術の開発に組み込み、私立駒場学園高等学校（東京都世田谷区）の協力を得て「循環型学生服」の実証実験（①）を行い、本年4月から、新入生の皆さんに先輩方の制服から再生した糸を使用した制服を実際に着用頂いています。

現在、EUにおいてエコデザイン規則が施行され、国内では経済産業省「繊維産業におけるサステナビリティ推進に関する議論の中間とりまとめ」が公表されるなど、繊維製品の廃棄の削減と再資源化への要請は一層強まっています。

ニッケは、エコネットワークのノウハウと130年の歴史で培った紡績技術を活用するとともに、お取引先を含めた「服から服」への循環アライアンスを構築することで「WAONAS」プロジェクトを推進し、ウール衣料品の廃棄ゼロを目指す新たなステージに進みます。また、「WAONAS」以外にも様々な未来へ繋げる取り組み（②）を進める考えです。

①「循環型制服」実証実験

【制服から新たな制服をつくる】



自律学習に力を入れている駒場学園高等学校と協力し、卒業生から譲りうけた制服を解体・反毛して繊維の状態まで戻し、その繊維から新たな生地を製織し、循環型素材を使って全く新しい制服に再生させる「循環型制服プロジェクト」が実現しました。

この取り組みに生徒たちが主体となって関わることで、衣類の大量生産、廃棄に伴う環境負荷の問題解決に自分たちも貢献できることを実感してもらいたい。そして、あらゆる環境問題を自分ごととして考えるきっかけにしてほしい、ということが大きな狙いです。



②未来へ繋げる取り組み

【ウールの生分解性の研究】



近年、洗濯などで衣類から脱落した繊維や破片によって発生するマイクロプラスチック海洋汚染が懸念され海水中での生分解性に関心が高まっています。その中で天然繊維であるウールはリサイクル可能なだけでなく、最終的な製品寿命を迎えた後、栄養素を出しながら土に還ることができる生分解可能な素材となります。

ニッケは神戸市立栽培漁業センターのご協力を得て、150日間海水に浸漬する実証実験を行い、ウールのほとんどが短期間で生分解されることが確認されました。



【独自の環境教育プログラム「ウールラボ」の展開】



「衣・食・住」の「衣」について学生服を通じ正しいウールの価値を訴求するため、「ウールラボ」という出前授業を学校や企業へ行っています。綿・ポリエステル・ウールの特徴や適切なお手入れ方法を実験やクイズを交えながら体験的に学ぶことができます。また、マイクロプラスチックによる海洋汚染問題に焦点を当て、学生服を通じてSDGsを自分ごととして考えるきっかけを提供しています。



《本件に関する問い合わせ先》

ニッケ 衣料繊維事業本部

販売促進部 松元 孝宣

TEL：06-6205-6666